

聖学院大学人文学部 実務経験のある教員による授業科目一覧

欧米文化学科：24単位
 日本文化学科：22単位
 児童学科：20単位

履修可能学科

No	科目名称	履修学年	単位数	教員氏名	実務経験	授業形態	授業内容または授業概要	欧米文化学科	日本文化学科	児童学科
1	異文化理解	1	4	小川 隆夫	埼玉県小学校教員	講義	異文化を理解し多様な文化的背景を持った人々と交流する体験を通して、異文化交流を行うことで文化の多様性に対する自らの視点から眺めて行くことを実感し、異文化交流の意義を理解する。英語が使われている国・地域の歴史・社会・文化について基本的な事項を知り、世界の文化の多様性を踏まえた異文化コミュニケーションの現状と課題を認識し、英語学習が異文化理解に極めて有効であることを体感する。様々な異文化交流及び摩擦の事例に学び、文化が人々の生活や関わりに及ぼす影響を考察しながら、英語を含む外国語やその背景にある文化の多様性を知る。また、様々な異文化適応の方法論に学び、多様な文化的背景をもった人同士が分かり合う可能性と方法を知る。さらに、異文化コミュニケーションの現状及び課題について学ぶと共に、異文化理解の英語学習への応用方法を考察する。	○		
2	現代英文法	1	4	村岡 有香	私立高校教員	講義	授業のテーマ及び到達目標中学校及び高等学校における外国語科の授業に資する英語学の知識を身に付けることをテーマに学ぶ。特に、英文法について学び、中学校・高等学校でいかに教えるかを念頭におきながら、各々の文法事項について検討する。併せて、文法事項の特性に応じて、話し言葉と書き言葉による言語形式の違いと英語の仕組みや、英語の歴史の変遷についても関連付け、英文法の理解を深める。英語の音声の仕組みと、英語の歴史の変遷及び国際共通語としての英語の特性を概観したのちに、それらの特性と関連付けながら、中学校及び高等学校で扱う文法事項について、項目ごとに扱う。各文法項目に関しては、中学校や高等学校での指導を念頭置きながら、文法学習の重要事項の理論と演習の方法論を検討する。音声の仕組みを教授することを意識した声に出して読む実践や、国際共通語であることを踏まえたコミュニケーション英文法についても扱う。	○		
3	英語音声学	1	4	加曾利 実	東京都立高校教員	講義	中学校及び高等学校における外国語科の授業に資する英語学の知識を身に付けるために、特に、英語の音声の仕組みをテーマに学ぶ。日本語とは異なる英語の音声構造及び音声学の基礎理論を学び、英語の音声の仕組みを正しく理解する。また、自らの正しい音声化を目指し、意思通りの発話を可能と思いを相手に正しく伝えられるような発音の習得を目指す。授業の概要英語の音声の様々な特徴（音素、音変化、アクセント、リズム、イントネーション、綴りと発音の関係等）について理解し、生徒に対する音声指導に役立てることができるよう音声指導の理論と方法論を学びながら、繰り返し練習を行うことで自ら正しい音声化を身に付ける。	○		
4	英語学概論	2	4	村岡 有香	私立高校教員	講義	グローバル化という現代社会にあって、英会話にとどまらず、英語全般に関する様々な知識が、必須事項となって来ています。英語を学習、研究、教育する者ならば、知っておかなければならない知識を網羅します。英語学に関する様々な分野、即ち音韻論・形態論・統語論・英語史等について概観します。統語論においては、伝統文法・アメリカ構造主義文法・生成変形文法を中心に講義します。本講義の一大特徴は、日本では、なかなか入手困難な、イギリスの著名な学者の朗読による「古英語や中英語などの当時の貴重な再現音声」を聞くことが出来る点です。授業の詳細については、最初の授業の時に、プリントで説明します。	○		
5	児童英語教育(インターンシップⅠ)	2	2	東 仁美	英語教室講師	実習	小学校英語指導者資格の必修科目である。小学校現場で実際の英語活動の実践を見学し、児童英語教育への理解を深める。児童英語教育の観察実習をする。公立小学校での授業見学のほかに、実習の事前指導がある。授業観察後、毎回実習レポートを提出する。	○		
6	児童英語教育(インターンシップⅡ)	2	2	東 仁美	英語教室講師	実習	児童英語教育科目の集大成として、英語のみで1時間の授業を指導する力をつけていく。児童英語教育の授業実習をする。公立小学校での英語活動の実習のほかに、指導案作成、教材作り、模擬授業など週2～3回の事前指導がある。	○		
7	TOEIC(初級) A	1	2	東 仁美	英語教室講師	講義	1. TOEICテストの出題傾向と内容を知り、TOEIC受験の準備を進めていく。2. 自分の英語力を自己診断し、自分に合った英語学習方法を見つける。3. 英語学習への意欲を高め、英語学習の習慣を身に付ける。TOEIC400点～500点取得を目標とする学生を対象とする。英語の基礎力を育成し、自律した学習者になれるよう、英語の勉強の仕方についてもトレーニングをする。TOEICテストで出題されるテーマごとにリーディング・リスニングの問題を扱う。小テストを通して単語力をつけ、テスト形式に慣れることを主眼に置いて、6月のTOEIC受験を目指す。	○		
8	教師論	1	2	井上 兼生	埼玉県高校教員	講義	教職の社会的意義について理解し、教員の役割・資質能力・職務内容等について学び、教職への意欲を高める。学校内外の専門職との協働や、職務を分掌しながらの専門職的成長についても学ぶ。自己をみつめて適性を判断し、進路選択に資する教職の在り方を理解する。1) 教員に求められる資質・能力について考え、資質・能力が多岐にわたること、また生徒や保護者あるいは同僚など、立場によって求めるものに違いがあることに気づき、教職について考察する。2) 教職・教員の身分に関する法令について学び、教員の役割と職務・身分保障について理解する。3) 近年の教員を取り巻く学校内外の環境の変化について事例から学び、校務分掌はもとより、チーム学校としての他職種協働や専門職的成長について理解した上で、これからの教員に求められる姿勢や能力について考察する。	○	○	
9	キリスト教文化論A	3	2	柳田 洋夫	秋田県立高校教員、日本基督教団伝道師・牧師	講義	世界の歴史や現状を知るために、宗教についてのある程度の理解が必要不可欠であることは言うまでもない。また、日本人は「無宗教」であるというが、ほんとうにそうであらうか。この授業においては、宗教教のアプローチを援用しつつ、宗教とは何かについて考えていきたい。宗教一般についての基本的理解を得るとともに、特にキリスト教と文化との関連について学び考察する。	○		

聖学院大学人文学部 実務経験のある教員による授業科目一覧

欧米文化学科：24単位
日本文化学科：22単位
児童学科：20単位

履修可能学科

No	科目名称	履修学年	単位数	教員氏名	実務経験	授業形態	授業内容または授業概要	欧米文化学科	日本文化学科	児童学科
10	キリスト教文化論B	3	2	柳田 洋夫	秋田県立高校教員、日本基督教団伝道師・牧師	講義	「神学こそは、およそ人が学びたいと願うものの中で最も魅力的なものだ」とイギリスの神学者A・E・マクグラスは言う。キリスト教神学は、欧米文化のみならず日本文化の深層からの理解にも資するものである。この授業においては、キリスト教神学について、また、人格・人権思想へのキリスト教の貢献について学ぶ。キリスト教神学思想についての基礎的理解を得ることによって、神学や哲学についての文献や議論にある程度対応できるようになるとともに、抽象的な問題にも自ら積極的に挑む姿勢を身につける。		○	
11	日本史概説A	1	2	阿部 能久	学芸員	講義	古代から中世にかけての歴史的事実について知識を深め、その背景を考察することにより、歴史を見る目を養うことを目標とする。また、大学が所在する旧武蔵国（現在の埼玉県）の地域史に着目することにより、自分たちの身近な場所の歴史についても理解を深めていきたい。概説Aでは、古代・中世の日本史を対象とする。テキストをもとに、この時代の政治や経済、文化の流れを把握することに努める。特に当該期の旧武蔵国を中心とする関東の状況について、この地の豪族たちの動向を中心にみていく。		○	
12	日本語教育概論	1	4	棚橋 明美	日本語学校講師、問題集出版等	講義	日本語教育に必要な基礎的知識を得ること。教員をめざさなくても、国内の多様な文化や、国際社会への目を開くこと。本講義では、日本の国内外で行われている日本語教育の現状や、その背景・歴史などを知り、日本語学習者や日本語教育というものを身近に感じ、思考することを目的とする。毎回のテーマについて、タスクが与えられ、学生はグループでそれについて討論し、結果を報告する。その結果に基づいてさらに討論をするなどして、タスクの解決を図る。		○	
13	日本語学(音声・音韻)A	2	2	棚橋 明美	日本語学校講師、問題集出版等	講義	日本語教育の視点から、日本語音声学・音韻論の中の単音（分節音）についての基礎を学ぶ。日本人にとっては、自分の発音を客観的かつ論理的に考えること、外国人にとっては、日本語の発音を論理的に知ることが目標である。日本語教育の観点から、日本語音声学・音韻論の基礎を学ぶ。「あいいうお」など単音の発音について、規範的な発音法を学び、自分自身の発音との差異を考える。そのために、実際に発音したり音声を聞いたりして、積極的に音声の微妙な違いや自分の調音部位の状態を発見するような活動を行う。また、日本語の発音記号の書き方を身につける。試験は、日本語教育能力検定試験の出題内容も視野に入れ、筆記と聴解の両方を課す。		○	
14	日本史の研究(中世史特論)	2	2	阿部 能久	学芸員	講義	日本の中世・近世は武士が政權を担う、まさに「武士の時代」であった。しかし、一口に「武士」といっても、その実態は中世と近世とは大きく異なる。また、中世の武士についても、時代や地域によって、その存在形態は実に多様である。このような中世を代表する存在である武士についての知見を得ることにより、日本の歴史や文化へのより深い理解につなげていきたい。近年の武士研究の目覚ましい進展により、従来の武士のイメージは大きく変容している。講義ではこのような研究成果を紹介するとともに、武士の誕生や発展の背景にあるものについて解説していく。		○	
15	国語科教育法Ⅰ	2	2	熊谷 芳郎	埼玉県高校教員	講義	国語の教師として、教材を研究するに当たって身に着けるべき基礎的な解釈技法の理解と習熟を目指す。この基礎の上に、様々な学習指導理論を踏まえて具体的な授業場面を想定した授業設計を行う方法を身につけることを目指す。「国語科教育法Ⅰ」と「国語科教育法Ⅱ」とがそれぞれ半期科目として国語科教育の基礎的な知識と技能とを理解し修得することを目指す。そして、前者は主に「理論編」であり後者は主に「実践編」という棲み分けがある。したがって、この科目は主に国語科教育の理論を主眼とした内容を扱うことになる。新学習指導要領が発表され注目が集まる今、学校教育現場では多様な課題が浮かび上がりつつある。授業を一方的な知識伝達の場合から相互交流による「学び」の場へと大きく転換することが必要である。その転換によって、主体的で対話的な深い学びが成立する教室が作られる。授業では、国語科教育を抱える今日的な課題について受講者とともに考え、国語科教育とは何かということについて一人ひとりがアプローチすることを目指す。そして、国語科の教師として、中学校あるいは高等学校の教壇に立つとはどういうことであるのか、どうあるべきなのかを考える基礎を作っていきたい。その上で、実践を視野に入れた授業構想を練ることを通じて、教育実習に実践的に役立つような授業内容を工夫したい。		○	
16	国語科教育法Ⅱ	2	2	熊谷 芳郎	埼玉県高校教員	講義	中学校・高等学校の国語科教育の理論と実践の学びを通して、国語科の教員として必要とされる知識と技能の習得を目指す。「国語科教育法Ⅰ」と「国語科教育法Ⅱ」とがそれぞれ半期科目となっているが、前者は主に「理論編」であり後者は主に「実践編」という棲み分けがある。したがって、この科目は主に国語科教育の実践を主眼とした内容を扱うことになる。新しい学習指導要領において「主体的で対話的な深い学び」「教育機器の活用」が重視されていることを踏まえ、この科目では、国語科における様々な言語活動の魅力的な扱いを工夫していきたい。また、どのような思考力・表現力・判断力の指導を目指すべきなのかについても、具体的な理解を深めることを目指す。国語科教育法は実践を基盤とするということに配慮して、授業そのものをテキストとした実践的な授業構築にすることにより、効果的な国語科教育指導者の育成を目指す。特に、後半は受講者による模擬授業を実施して、実践的な内容を中心とした授業を展開する。また、教材研究の進め方について理解することは、学習指導に対する自信を生みだし、その自信が教育という職業に対する新たな情熱を生むであろう。そのため、受講者全員が教材研究の方法に習熟し、活用する力を身につけることを目指す。さらに、教えるということは、大きな責任を伴うものでもある。この授業を通して、その責任の大きさも自覚してほしい。		○	

聖学院大学人文学部 実務経験のある教員による授業科目一覧

欧米文化学科：24単位
 日本文化学科：22単位
 児童学科：20単位

履修可能学科

No	科目名称	履修学年	単位数	教員氏名	実務経験	授業形態	授業内容または授業概要	欧米文化学科	日本文化学科	児童学科
17	図書館情報学概論	2	2	塩崎 亮	国立国会図書館	講義	図書館の概要を理解するとともに、記録された情報を探し、整理した上で人に伝える力を育む。司書資格取得を目指す受講者にとっては、司書資格取得科目の導入として、今後に学ぶ諸科目に関する基礎知識をもえる。文部科学省令で定められた科目内容に即し、図書館の社会的意義、機能、法制度、歴史・現状・今後の課題、公立図書館以外も含めた各種図書館の概要、利用者、出版流通業界との関係等について取り上げ、社会における図書館の全体像を把握できる内容とする。		○	
18	社会	1	2	川瀬 敏行	埼玉県小学校教員	講義	小学校社会科の目標や学習内容を中心に学び、小学校教員免許取得で求められる基本的なことについての理解を目標とする。小学校社会科の目標や各学年の学習内容・指導事例研究を中心に取り上げる。そのほか、学習指導要領と社会科、社会科教育の歩み、小・中学校社会科の関連、社会科指導の基礎と課題等についても研究する。			○
19	算数	1	2	齋藤 範雄	埼玉県中学校/小学校教員	講義	算数指導のねらいを理解するとともに、基礎的・基本的な知識と技能を習得し実際の指導に活かせるようにする。小学校学習指導要領に準拠した内容を、子どもの概念形成を踏まえて理解できるようにする。教材研究を通して、よりよい授業のあり方を研究し、学校現場に立ったときに自信を持って実践できるように自らの力量を高める。			○
20	理科	1	2	丸山 綱男	埼玉県小学校教員	講義	本授業では、2020年度から実施される新学習指導要領の改訂のポイントとなる資質・能力の3つの柱に焦点を当てる。3つの柱（①何を知っているか、何ができるか【知識及び技能】②知っていること・できることをどう使うか【思考力・判断力・表現力等】③どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか【学びに向かう力・人間性等】）を育む小学校理科教育の目標、内容についての基本的な理解を図る。これまで、学習指導要領各学年の目標に記載されていた「問題解決の能力」が各学年の内容に記載されたことから、受講生が指導者として、内容と問題解決の能力をより意識して、児童の理科に対する、見方・考え方を働かせる力を育て、興味・関心や問題解決の能力を高めていく。また、観察・実験の技能の習得と向上を図るため、各学年の「物質とエネルギー」「生命・地球」の単元の中から特に、技能を身に付ける必要のある内容を体験する。さらに、実験器具の基本操作の習得、安全な理科指導を身に付け、事故防止を図る。理科において、基礎的・基本的な知識・技能は、実生活における活用や論理的な思考力の基盤として重要な意味を持つ。本授業では、受講生自身が自然に親しみ、目的意識を持った観察・実験を行う。その際に、「主体的・対話的で深い学び」の実現を図ることができるような活動を重視する。また、これまで培った、一人一人の理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察・実験を行うことを通して、問題解決の力を身に付けながら、将来指導者になった時に、応用することができる教材観や児童観を身に付けることができるようにする。理科のA,B区分の特徴を把握し、理科に対する興味・関心、学習意欲を高め、その魅力を指導者として児童に提示していくことができるような、学ぶことの意義や有用性を実現できるようにする。さらに、理科として現代社会における環境問題にも触れ、理科を通して、人間活動と身の回りの環境に対する科学的な認識を形成させること、人間活動を含めた自然事象に対する豊かな感受性を養わせること等、理科指導の充実を図る。			○
21	生活	1	2	市村 和子	埼玉県小学校教員	講義	生活科の目標や学習内容をテーマとして学び、指導のねらいを理解するとともに、生活科設立(1989年)の経緯とその背景、趣旨について正しく理解することを目標とする。また、生活科の授業を展開するに当たっての教師の役割、子どもの思いや願いをテーマに学び、子どもの思いや願いを予測することの大切さに気付く感性を養うことも目標とする。小学校学習指導要領をもとに、生活科新設の経緯や趣旨、生活科の目標及び内容構成等についての概要を学ぶ。また、授業の構想の仕方や教材の開発等について、具体的な活動や体験、実践事例等をおして学ぶ。さらに「幼児期の教育」との連携やスタートカリキュラムの重要性についても考察する。			○
22	保育内容総論	1	2	相川 徳孝	幼稚園教諭	演習	幼児期の特性を踏まえた教育とはどのようなものかを理解し、遊びを通した総合的な学びの在り方と主体的な遊びを展開するための環境を構成する力を身に付ける。また保育を展開するための指導計画の作成方法と具体的な指導の在り方について学ぶ。子どもの姿や保育の評価、情報共有および記録、保育分析・保育改善に情報機器を活用した映像資料が有益であることを理解し、互いに撮影して活用する手法を学ぶ。幼児教育がどのような考えのもとで展開されているのかを理論と具体的な保育の場面から学び、各自が実践してみることを通して身に付けていく。保育とは何か、また遊びを通した幼児の育ちを理解するために映像資料を活用するとともに、情報モラルを踏まえて模擬保育を映像で記録し振り返り等に生かす。			○

聖学院大学人文学部 実務経験のある教員による授業科目一覧

欧米文化学科：24単位
 日本文化学科：22単位
 児童学科：20単位

履修可能学科

No	科目名称	履修学年	単位数	教員氏名	実務経験	授業形態	授業内容または授業概要	欧米文化学科	日本文化学科	児童学科
23	初等社会科教育法	2	2	川瀬 敏行	埼玉県小学校教員	講義	学校において、授業はもっとも重要な教育活動である。教科の一つである社会科授業の実践に結び付く力を身に付けていくことを目標とする。社会科の目標・内容の理解及び様々な学習指導理論を踏まえた具体的な授業場面を想定した授業設計を行う方法や社会科学習指導案の作成能力を身に付けることができるようにするとともに、模擬授業実践と研究を行って、教職を目指す資質・実践的指導力の育成を図る。専門科目「社会」で学んだことを基に、小学校社会科授業の事例・指導法を研究するとともに、各自が学習指導案の作成、模擬授業の実践をし、小学校の社会科指導について学ぶ。社会科学習指導案作成の基本とポイントについては、学習指導案の構造や指導方法、学習形態の工夫、教材研究の仕方等について理解していく。模擬授業では、各自が作成した学習指導案によって実践、研究していく。その中で、教科書の意義と活用、学年や児童の実態に応じた教師の話し方・板書の工夫、教材・資料の活用、学習評価と方法、基本的な学習ルールの確立、話し合いの仕方・ノート指導、机間指導、問題解決的な学習や体験的な活動を取り入れた指導、ICTの活用等を通して、具体的に社会科授業の実践について学んでいく。			○
24	算数科教育法	2	2	齋藤 範雄	埼玉県中学校/小学校教員	講義	算数指導の基礎・基本を理解するとともに、算数・数学を学習する楽しさやよさを感じ、授業実践に結びつけた力を身に付ける。算数科のねらいを明確に捉えるとともに数学を創る立場から算数科の教材を研究する。授業では、問題解決を通して算数数学を使って考える楽しさや算数数学のよさを感じ、学ぶ意欲を高める授業実践のあり方を身につけるようにしたいと考えている。同時に、情報機器及び教材の効果的な活用方法を学び模擬授業の実践に結びつける。			○
25	理科教育法	2	2	丸山 綱男	埼玉県小学校教員	講義	本授業では、2020年度から実施される新学習指導要領の改訂のポイントとなる資質・能力の3つの柱にも触れながら理科教育法を習得させる。3つの柱（①何を知っているか、何ができるか【知識及び技能】②知っていること・できることをどう使うか【思考力・判断力・表現力等】③どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか【学びに向かう力・人間性等】）を育む小学校理科教育の目標、内容についての基本的な理解を図る。学校現場では、多忙感もあってか自校の理科器具を使用させるより、理科教材セットを一括購入して理科学習を進めるなど、理科指導を苦手とする教員の実態が指摘されている。そのような課題を解決するために、児童が自然の事物・現象に触れて好奇心や探究心を抱いて理科の面白さが実感できる授業はどうあるべきか、事例を通して追体験をする。さらに、理科学習指導案の作成とその模擬授業を取り入れて実践力を高める。理科の教材研究を深めて適切な授業設計を立案し、児童の科学的な見方や考え方をいかに深化させるかが問われる。授業を実施する前には授業過程や学習指導の仕方を設計するための豊富な経験・構想力が必要である。本授業では、児童に理科学習の成立を確実に保障するために、事例演習・実験を通して学習指導案（模擬授業用）を作成する。模擬授業を実施し、その効果の検証を通して理科指導力を磨く。将来、教員として理科が好きになりその面白さをいきいきと児童に伝えられる専門的力量を持ち、実践的な指導力を備えた質の高い教員の養成を目標とする。			○
26	生活科教育法	2	2	市村 和子	埼玉県小学校教員	講義	小学校学習指導要領における生活科の目標及び内容を踏まえた授業をテーマに学び、授業実践についての基本的な考え方や指導方法を理解し、「生活科の授業づくり」ができる指導力を身に付けることを目標とする。また、生活科における子どもの学び、教師の役割、子どもの思いや願いを生かした授業等について、自分なりの考察ができるようにする。小学校学習指導要領に照らしながら、生活科の授業について事例研究を行う。いくつかの教材を基に教材研究の手順を理解するとともに、自ら生活科の教材づくりに取り組む。また、子どもの意識の流れに沿った学習指導案の作成や、模擬授業をとおして授業の進め方を実践的に学ぶ。			○
27	知的障害児指導法	2	2	齋藤 一雄	国立大学附属養護学校教諭、同学校副校長（教頭）	講義	1）知的障害教育の教育課程の編成について基本的なことを理解する。2）特別支援学校や特別支援学級の具体的な教育課程編成と指導計画の作成について理解する。3）知的障害児を中心に肢体不自由児や病弱児の指導方法について理解する。4）指導案の作成や指導方法を学び、授業の評価の基本を理解する。本授業では、知的障害特別支援学校や知的障害特別支援学級の教育課程編成について理解するとともに、各学部や各指導の形態ごとの指導計画を学ぶことができるように構成している。さらに、具体的な指導案の作成や指導方法についての知識や技能を深めるとともに、事例をとおして個別の指導計画の作成と活用について理解を深めるように構成している。これらをとおして、特別支援学校教諭としての実践的指導力の育成を目指す。			○